

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立五代小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	135人	算数	135人	理科	135人
第5学年	国語	107人	算数	107人	理科	107人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

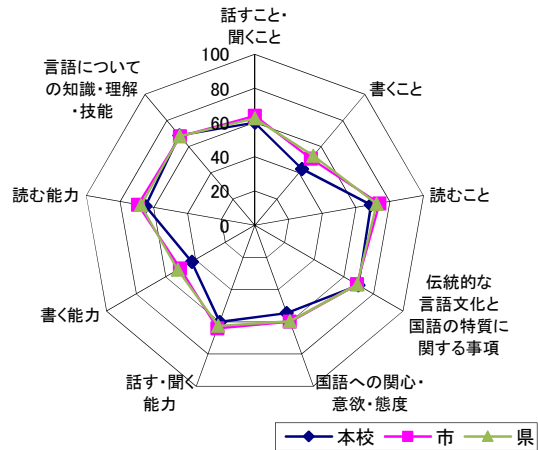
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	60.0	64.0	62.5
	書くこと	43.0	50.9	53.1
	読むこと	68.9	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.9	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	54.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	60.0	64.0	62.5
	書く能力	42.5	50.4	52.0
	読む能力	64.8	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.6	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

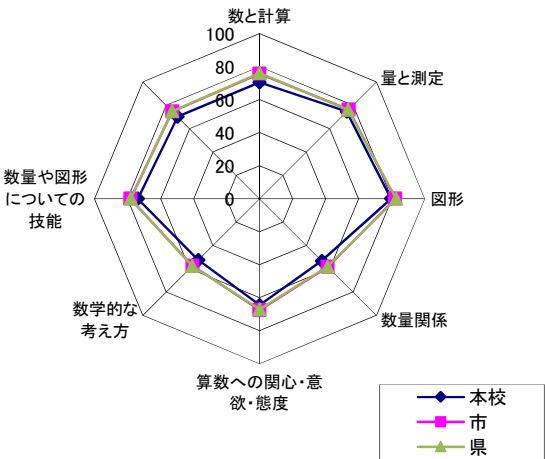
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校平均正答率は、県・市に比べてやや下回っている。 ○インタビューの質問のねらいを理解することについては、県の正答率よりも9.6ポイント高かった。 ●話し合いにおいて、話し方の工夫に注意して聞き取ることにについては、県の正答率よりも9ポイント低かった。	・話し合いの場を意図的に設け、相手の意見を整理して聞いたり、自分の考えと比べて聞いたりできるよう指導していく。 ・自分の考えを伝える時は、接続語を意識したり大切な言葉を強調したりするよう指導をしていく。
書くこと	本校平均正答率は、県・市に比べて下回っている。 ○話題に沿った意見と理由を考えて文章で書くことにおいては、県の正答率を下回ったものの半数以上の児童が正答できた。 ●指定された条件で作文を書くことにおいて、理由や事例を挙げて文章を書く設問では、県の正答率よりも12.4ポイント低かった。	・書く内容の中心を明確にして、「初め」「中」「終わり」の順で内容を整理した文章構成を意識させながら指導していく。 ・意見や考えを書くときは、根拠を明確にして理由や事例を挙げた書き方を指導していく。
読むこと	本校平均正答率は、県・市に比べて下回っている。 ○物語において、場面の内容を読み取ることにについては、県の正答率よりも2.3ポイント高かった。 ●説明文において、文章の内容を正確に読み取ることにについては、県の正答率よりも8.8ポイント低かった。	・文章を読む際には、何について書かれているのか要点を押さえながら読むことが習慣付くよう指導していく。 ・文章全体を通して、それぞれの段落同士のつながりを意識して読むよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校平均正答率は、県・市に比べてやや上回っている。 ○漢字の書きについては全体的に正答率が高く、4問中2問が県の正答率よりも10ポイント以上高かった。 ●言葉の学習において、文の構成(主語と述語)についての理解については、県の正答率よりも28.9ポイント下回った。	・単語カードなどを並び替えて文を作る学習を通して、主語や述語にあたる言葉について理解できるようにする。 ・文章の中で、主語と述語のつながりを意識して読むよう、日頃から指導していく。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.4	75.8	76.1
	量と測定	74.7	76.5	76.0
	図形	79.7	82.1	82.7
	数量関係	53.3	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	64.4	67.4	67.0
	数学的な考え方	52.6	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	73.7	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	70.3	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

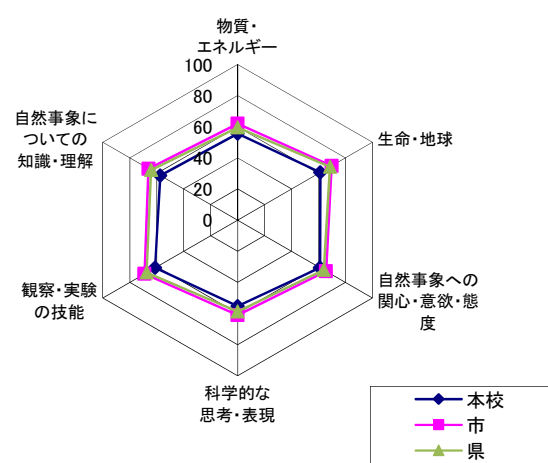
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校平均正答率は、県・市に比べて下回っている。 たし算・ひき算・かけ算、少数の計算に課題が見られる。 ○同分母の計算問題について、正答率は県平均よりも0.5ポイント上回っていた。 ●2けた×1けたの計算や十進位取り記数法の正答率は、県平均より10ポイント以上低く、数の相対的な大きさの理解は14.1ポイント下回った。	・計算力に個人差が見られる。基本的な問題を確実に正解できるようにしたい。 ・時間内に終わらなかったり、正確に計算ができなかったりする児童に対しては、計算ドリル等を活用し、できるだけ多くの問題を解くことを繰り返し指導していくとともに、間違えた問題は、必ずもう一度やり直すことを徹底する。 ・十進位取り法など、計算の基礎となる数の仕組み等についての理解を確実にする。
量と測定	本校平均正答率は、県・市に比べて下回っている。 ○地図から読み取った2つの道のりの大小の理解についての問題では、正答率が県平均より2.2ポイント上回った。 ●1分＝60秒の関係を使った問題の正答率は、県平均より6.2ポイント低かった。	・時間、長さ、重さなどを様々な単位を用いて正しく表現するには、身近にあるもので推察して、実際に妥当であるか考えさせていく。特に時間に関しては、日々の生活場面の中で数量を想起させる機会を具体的に設定し、指導していく必要がある。量感を身につけることに関しても同様である。
図形	本校平均正答率は、県・市に比べて下回っている。 ○正三角形の作図は、県平均よりも1.6ポイント上回った。 ●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める問題では、県平均よりも10.4ポイント低かった。	・円と球の学習では、ボール遊びなど日常生活と関連付けたり、模型の操作や観察、パソコンにおけるシュミレーション学習などを通して体験型学習を取り入れたりすることで、視覚的・感覚的に理解できるような指導をしていく。
数量関係	本校正答率は、県・市に比べてやや下回っている。 ○□を使った情報の式にあった文章問題を選ぶ問題では、正答率が県平均より3.5ポイント上回った。 ●棒グラフの読み取りや、目盛りの大きさと最も大きい値に着目して棒グラフを書くことができない理由の説明問題では、県平均よりも7.2ポイント、8.3ポイント下回っていた。	・表やグラフを正しく作成したり、読み取ったりする基礎・基本を定着させ、数量関係を分かりやすく整理する技能を繰り返し指導していく。 ・授業でも、考えや理由を文章化する機会を設け、記述に対する抵抗感を少なくすることと表現力の向上を図っていく。

宇都宮市立五代小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.6	61.9	59.4
	生命・地球	61.3	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.1	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	55.2	61.0	58.8
	観察・実験の技能	61.2	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	57.4	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	本校正答率は、県・市の平均よりやや下回る。 ○物の重さの内容については、県や市の平均よりも高い。種類の異なる同体積の物体の正体を、情報を読み取って推測することの設問の正答率は県よりも5ポイント以上も上回る。 ●風やゴムのはたらきの内容については、県や市の正答率が66.1%であるのに対し、本校の正答率は55.1%と低い。2つのおもちゃを比較して、ゴムのはたらきについて推測できなかった児童が59%いた。	・実験を行うときは、児童自ら予想を立て、結果を正確に記録することで、細やかな変化に気づき、理論・説明できるようにする。また、説明するときには、基本的な理科の用語を用いて、論理的な思考の育成を図る。
生命・地球	本校正答率は、県や市より下回る。 ○身近な自然の観察の内容では、こん虫の体のつくりや特徴については、2ポイント上回る。虫眼鏡の使い方をよく理解している。 ●植物の育ち方の内容は、県や市の平均よりも10ポイント下回る。ホウセンカの種を正しくまいて世話をすることができるは11.3%、植物の育つ順序を理解しているでは、17%県の平均よりも下回る。	・身近な自然の観察に関心があるので、こん虫の観察や特徴をよく理解しているとともに、植物の育ち方について、スケッチや文章表記をする活動を意図的に取り入れていく。どうしてそのように考えたのかなど、自分の考えやその理由が文章で正しく表現できるようにしていく。

宇都宮市立五代小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の設問では、児童の肯定率が98.1%で、「学校の宿題は自分のためになっている」の設問の肯定率も92.4%と高かった。学校で出された宿題に関しては、必ずやるべきものとして認識しており、有益だと児童が実感している成果だと思われる。ただし、自分で学習内容を決めて自主的に行うことや、授業の予習・復習を行っている児童は、市や県の肯定回答よりも少なめであるので、家庭学習の内容そのものを工夫して行う必要がある。

○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の設問では、むずかしいと答える児童が74.3%と多いものの、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の設問では、76.2%と肯定率が高かった。今後も授業で「ねらい」と「まとめ」をはっきりと示し、さらに自分の考えを書いて表現することを積極的に行っていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定率が37.2%、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定率が62.8%と低く、クラスの集団づくりと個々の役割について考えさせたり、お互いのことを口に出してほめたり認めたりする場面を作ったりする必要がある。

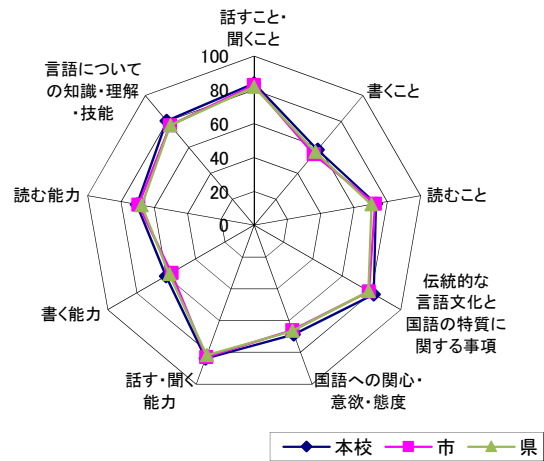
●宿題以外のことをやらない傾向にある。とくに読書に関しては、平日学校以外で「全くしない」26.7%、「1か月に、何冊くらい本を読みますか」で「1～2冊」「1冊も読まない」を合わせると39.1%となり、読書量が大変少ないことが分かった。年齢・学年に合わせた読書の内容や量を考える必要がある。

●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定率が88.5%と高い数値であるにも関わらず、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」という児童の回答は41%にとどまっている。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	83.8	82.9	81.8
	書くこと	58.4	54.8	56.5
	読むこと	73.2	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.7	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	68.6	66.0	66.4
	話す・聞く能力	83.8	82.9	81.8
	書く能力	60.1	56.3	57.9
	読む能力	70.5	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	80.5	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

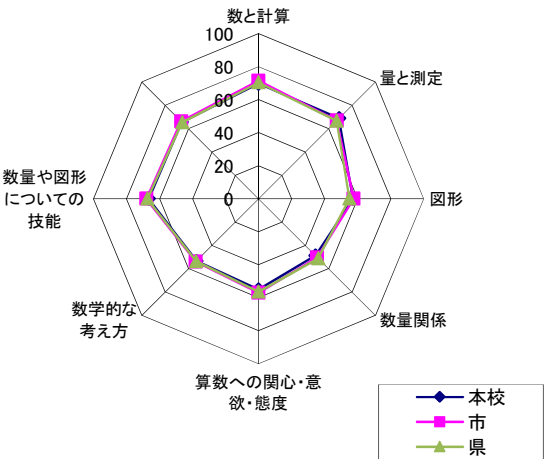
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校平均正答率は、県・市にほぼ等しい。 ○話し合いにおいて司会者の役割として、参加者の共通点をまとめることについては、県の正答率よりも4.7ポイント高かった。 ●話の中心に気をつけて聞き取ることについて、県の正答率より0.1ポイント低かった。	○話し合いの場を意図的に設け、相手の意見を整理して聞いたり、自分の考えと比べて聞いたりできるよう指導していく。 ・話の内容の中心を意識させて話を聞いたり、文章を要約する活動を取り入れ、相手が一番伝えたいことが捉えられるよう指導していく。
書くこと	本校平均正答率は、県・市に比べて約2ポイント高い。 ○意見をもとに、ポスターの文を書くことについては、県の正答率より7.8ポイント高い。 ●情報を適切に読み取り、ポスターの文を書くことについては、県の正答率と近いものの正答率が41.5%と低い。	・文章のなかで大切な箇所にアンダーラインを引くなど他の文と差別化を図り、情報を適切に読み取らせたり、必要な情報を整理し、相手に伝わりやすい文章にまとめられることができるように指導する。 ・書くことに苦手意識をもち児童が安心して自分の考えたことを記述できるようにするために、日々の学習における振り返り活動の充実を図るように留意する。
読むこと	本校平均正答率は、県・市に比べて上回る。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちや、説明文の内容を適切に読み取ることについては、県の正答率より6ポイント以上高い。 ●説明文の段落のまとまりを理解して、段落の関係を整理することについては、県の正答率と近いものの正答率が35.8%と低い。	・文章を読む際には、段落ごとに何について書かれているのか要点を押さえながら読むことが習慣付くよう指導していく。 ・文章全体を通して、段落同士のつながりを意識させ、関係を整理させながら読むよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校平均正答率は、県・市に比べて3ポイント上回る。 ○第4学年配当漢字の読みに関しては、全ての設問で県の正答率より上回り、「働く」を漢字で書くことは、正答率が95.3%と高い。 ●文の構成(修飾語)の理解に関して、県の平均より下回る設問があった。	・修飾語を意識させるために、文章を読む際にはどの文節が主語、述語、修飾語にあたるのかを確認したり、書く際には主語、述語、修飾語を色分けして視覚的に捉えたりできるように指導する。 ・国語辞典を使う機会を増やし、日頃から児童が修飾語に慣れ親しむ環境づくりに努める。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.8	71.5	70.4
	量と測定	68.9	67.0	66.9
	図形	57.2	57.6	55.0
	数量関係	48.7	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	55.0	57.0	56.3
	数学的な考え方	53.3	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	66.6	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	65.8	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

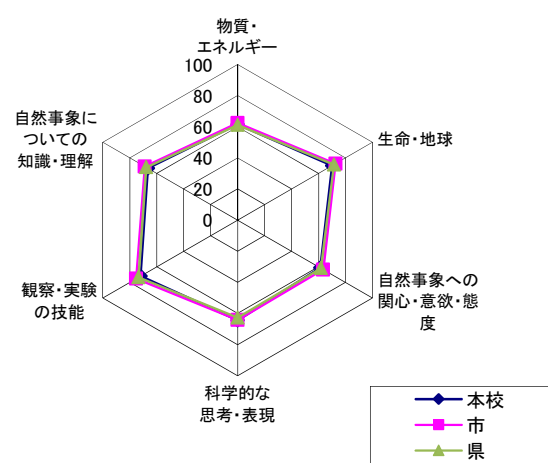
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校平均正答率は、県・市に比べ下回る。 ○仮分数、帯分数、整数、真分数の大小関係の設問は、県の平均より9.14ポイント上回る。 ●小数第一位から小数第二位のひき算の計算の正答率は、県の平均より10ポイント下回る。	・小数の筆算をする際には位取りに注意し、小数点に位置を揃えてひき算ができるよう繰り返し指導をしたり、演習プリントを活用し復習する機会を多く設けたりすることで、児童の数量感覚に対する定着を図る。
量と測定	本校平均正答率は、県・市に比べ上回る。 ○面積をもとに5等分した長方形の1辺の長さを求める設問では、県の平均より7.5ポイント上回る。 ●分度器の目盛りを正確に読み取り角の大きさを測る設問は県の平均よりも5.3ポイント下回るが、108°より大きい角を求める式を選ぶ設問では県の平均より6.2ポイント上回る。	・分度器を使って正しく角度を測れるように、角の頂点と分度器の中心を揃え正確に目盛りの読み方を、繰り返し指導を行ったり、演習プリントを活用し継続して学習する機会を多く設けたりすることで、分度器で正確に目盛りを読み取れるようにする。
図形	本校平均正答率は、県に比べ高いが、市に比べ等しい。 ○四角形の対角線の性質や直方体の辺と辺の関係についての理解は、県の平均より上回る。 ●平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなることを説明する設問は、県の正答率より若干低く13.7%であった。	・平行四辺形の模型や展開図などを用いて指導を行い、角や辺の性質をつかませたり、演習プリントを活用し継続して学習する機会を多く設けたりすることで、平行四辺形の性質や特徴の定着を図れるようにする。
数量関係	本校平均正答率は、県・市に比べ下回る。 ○四則の混じった式の計算順序の設問では、県の平均より1.4ポイント上回る。 ●二次元表の読み方を理解し、事例が表のどこに該当するか設問では、県の平均より13.4ポイント下回る。	・数量にしるしを付けたり、聞かれている箇所に下線を引いたりすることで、設問の意味を正しく捉えさせる。 ・児童がイメージしやすい具体例に置き換え、練習問題に取り組みさせることで、意欲的に取り組めるように留意する。

宇都宮市立五代小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.6	62.4	61.1
	生命・地球	70.0	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.2	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	64.3	64.1	62.6
	観察・実験の技能	71.9	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	66.6	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	本校正答率は、市より下回るが、県よりも上回る。 ○水を冷やしたときの状態をグラフから読み取る設問は、県の平均を11.4ポイント上回る。金属棒を熱したときの熱の伝わり方の設問は、県の平均を14.2ポイント上回る。 ●空気の温まり方の設問では、県の平均を14.5ポイント下回るが、水の温まり方から投げ込みヒーターの先が長い理由を説明する問題では、正答率が35.8%で県の平均を6.9ポイント上回る。	・グラフから数値を読み取って設問に回答することができているので、今後も複数のグラフや図を正確に読み取ることができるように指導する。 ・「空気の温まり方」では、児童が空気の温度変化と体積変化を関連付けて思考することができるように、理科の用語を正しく使いながら論理的に事象を説明できるように指導する。
生命・地球	本校正答率は、県・市よりも下回る。 ○1年間の植物の成長では、正答率は県の平均より上回り、ヘチマの実の中に種ができる設問では正答率99.1%と高い。 ●「月と星」の内容では、月の名称を問う設問で県の平均にほぼ等しいが、半月の動きを問う設問では県の平均を7.1ポイント下回る。「自然の中の水」の内容では、常温で水が蒸発することの正答率が県よりも9.6ポイント下回り、容器にふたがあると内側に水滴が付く設問で県の平均より4ポイント下回る。	・日々の観察を行う中で得た知識や結果をもとに回答することができているので、今後も体験的な活動を重視して活動を行っていきたい。 ・「月と星」の半月の動きに関しては、動画や掲示資料を活用したり、家庭などで実際に月を観察したりしながら学習を進めることで児童の生活と関連付け、児童の興味関心が引き出せるように指導を行っていきたい。 ・「自然の中の水」では、水の状態変化に関する実験を行う際に児童自らが方法と予想を考え、結果を記録し論理的に事象を説明できるように指導する。

宇都宮市立五代小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の設問では、児童の肯定率が98.1%で、「学校の宿題は自分のためになっている」の設問の肯定率も93.2%と高かった。日々の家庭学習が定着し、自己の学力を向上させるために宿題は有益だと児童が実感している成果だと思われるので、学校での指導に加え、家庭との連携を図り、家庭学習の更なる充実を図っていく。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の設問では、児童の肯定率が90.5%で、「クラスは発言しやすいふん囲気である」の設問では、85.8%と市や県の肯定率よりも高かった。様々な場面で協同的な学習や対話的な学びを取り入れて、児童の意欲を高める授業の導入や授業の展開を工夫していくことを今後も続けていきたい。

●読書に関しては、平日学校以外で「全くしない」27.4%が県・市の割合よりも高く、読書量も「月に1～2さつ」30.2%と県・市の割合よりも高い。本校児童は、学校以外で読書しない児童が多くいる。

●「学校の宿題をしている」の肯定割合は98.1%と高いが、「授業の予習、復習をしてる」肯定割合は、44.4%、53.7%と県・市の肯定割合より下回る。「自分で計画を立てて学習している」68%、「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」46.3%と、県・市の肯定割合よりも下回っており、平日の勉強時間は、おもに「1時間以上2時間未満」49.1%、「30分以上1時間未満」34.0%の児童が多く、学校で出された宿題のみの家庭学習になっている。

宇都宮市立五代小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話し合い活動の推進	・全学年でミニ・ボードを活用した協働学習を行っている。話し合い活動を通した思考力・表現力を高める学び合いの場を多く設定する。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答の割合は、市・県の平均より下回っている。「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定的回答は比較的高い。今後も引き続き、適切な場面での話し合い活動の充実を図っていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生とも、算数の「数と計算」領域の正答率が低い。	知識・技能の確実な習得	・学習問題とまとめを意識し、授業改善を図る。課題を明確にし、見通しをもって取り組める学習を展開する。 ・個人に応じた課題を設定し、自分でめあてを達成できるような支援をする。